◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載◆第28回／目黒林間学校

Residence of Prince Asaka 1933—

図1

当館と、隣接する国立自然教育園の敷地は、明治時代に軍の火薬庫として使用された後、1917(大正6)年に御料地(皇室所有の土地)に編入されました。1921(大正10)年にはその一角で朝香宮の新邸建設のために、整地や配水管の埋設工事などがはじまっています。通常であれば、一般の人の立ち入ることのできない土地だったでしょう。

しかし1923(大正12)年の関東大震災をきっかけに、白金御料地が一般に開放されたことがありました。事の発端は、朝日新聞に投稿された読者の提案です。震災後バラックの校舎での授業を余儀なくされ、夏の暑さで苦しむ児童たちのために御料地の森林を開放してはどうか、という内容でした*1。これを受けて朝日新聞の記者が宮内省に交渉し、1924(大正13)年の8月1日から20日にかけて、白金御料地での林間学校が実現することとなりました。大正時代のはじめから児童の健康増進を目的とした林間学校が盛んに開設されましたが*2、東京市が主催し、御料地を使用しての「目黒林間学校」は未曾有(みぞう)の試みでした。

図3

参加した児童の数は、50校2700名余り。20日間ではのべ5万人を超えています。敷地内には昼寝用のテントの他、テニスやバスケットボールのコート、相撲の土俵やプールなどの設備が東京市によって用意されました。現在の自然教育園の展示ホール・事務室のあたりに受付が設けられ、教職員や医師などが待機する本部は当館の正門付近に置かれていたようです。おやつや牛乳もふるまわれ、児童の図画や綴方の展覧会や、音楽の演奏会、奇術などの演芸会、絵本の読み聞かせ会などのイベントも充実していたことが新聞報道から伺えます*3。目黒林間学校は大変好評を博し、翌1925(大正14)年にも開催されました。

図2 ©kabashima

この時朝香宮鳩彦(やすひこ)王と允子(のぶこ)妃はパリ滞在中であり、御料地を貸し出すことについて、直接的に決断を下したわけではありません。しかし震災に見舞われた東京とそこに暮らす人々について心を痛め、パリから救援物資を送るなどしていました。新邸建設までの間、白金御料地に元気な子どもたちの声が響いたことは、朝香宮家にとっても嬉しいことだったのではないでしょうか。(八巻) ◆

図1. 目黒林間学校の開校式の様子(東京朝日新聞、大正13年8月2日夕刊より)

図2. 朝日新聞の人気連載漫画「正ちゃんの冒険」にも、目黒林間学校が登場している。(東京朝日新聞、大正13年8月10日より)

図3. シーソーで遊ぶ子どもたち(東京朝日新聞、大正14年8月1日より)

*1. 東京朝日新聞、大正13年7月6日および7月8日

*2. 現在、林間学校の語は、主に自然に囲まれた環境で合宿生活を行う学校行事を指すが、大正期には児童が休暇を過ごすための施設という意味で使われており、必ずしも宿泊は伴わない。野沢巌、梅田利兵衛、長谷川純三、飯田稔、山田誠、古城建一「学校における野外教育の歴史的研究—特に大正時代の林間学校を中心にして—」、『体育学研究』、日本体育学会、1971年、Vol.15, No.5, p.17

*3. 目黒林間学校は東京市主催、朝日新聞後援で行われたため、林間学校の様子は連日、朝日新聞紙上で紹介された。